様式 2

令和 5 年度 東京藝術大学 未来創造継承センター
芸術資源活用プロジェクト　実績報告書

※Word ファイルで提出してください。

プロジェクトのタイトル	古典絵画を対象としたディテール・アーカイブとその活用	
実施責任者（申請代表者）	氏名	所属／学年／役職 （所属がない方は未記入）
	鈴木七実	東京藝術大学大学院美術研究科／教育研究助手
実施期間	令和５年　４月　１日　～　　令和６年　３月　３１日	
実施内容 ※申請書の「プロジェクトの概要」や「実施計画・方法」に記載した内容について、実際にどのようなことを実施したのかについて記載。 （500～600 字）	■撮影対象作品の選定 大学美術館 HP 収蔵品データベース等からの情報で候補作品を挙げ、大学美術館の教員からの助言を受けて 18 作品を選定した。事前に美術館収蔵品高精細デジタル画像閲覧を行い（6 月 19 日）、実際に撮影する作品を 12 点に絞り込んだ。 ■収蔵作品の撮影 7 月 19 日、7 月 26 日の二回に分けて収蔵作品の撮影を行った。大学美術館の調査室において、通常光撮影、斜光撮影、マクロ撮影、近赤外線反射撮影の範囲で実施した。現役の修理技術者にも同伴していただき、損傷箇所や修理の痕跡を確認しながら一点ずつ記録をとった。掛軸、屏風、巻子、冊子、額装など作品ごとに表装形式が異なり、状態も様々であったため、閲覧方法や順番は美術館教員の判断に従った。 また、別日にも収蔵品閲覧の機会を得られたため、追加撮影を行った。 ■画像編集・調査資料整理 撮影後に明度等調整を行い、技法、表装形式、損傷等、種類別にフォルダ分けした。 ■解説文執筆・資料集としての編集 現在、技法等が理解しやすいように画像を適宜トリミングし、教育資料として活用できるように解説を付したレイアウトに編集中である。解説の内容は、文化財保存学、大学美術館、芸術学で専門性のある教員からの校閲を受けながら決めている。	
実績報告 ※プロジェクトを通じてどのような成果を得ることができたのかについて具体的に記載。 （500～600 字） ※別途、プロジェクトの実施状況や成果が分かるものを画像ファイルもご提出ください。 （必須）	本プロジェクトは、大学美術館収蔵品のうち「東洋画真蹟」「東洋画模本」を対象として、典型的な古典技法や表装形式、損傷箇所や修復箇所を撮影し、それらの画像を教育資料として活用することを目的としたものである。 古典絵画における截金や裏彩色、さまざまな画絹や画紙といった技法材料、また、作品の損傷状態や修理痕等がわかる写真画像は、日本美術史や文化財保存の専門的な教育研究において非常に重要かつ有用と考えられる。しかし、そういった写真はときに作品の価値や評価に影響するデリケートな内容を含むため、所蔵者の許諾を得て撮影、公開することが難しいという現状があった。 今回、教育資料とする目的で収集されてきた背景をもつ大学美術館の収蔵品に着目し、記録撮影とアーカイブ化を試みた。やみくもに何点も出すのではなく、美術館教員の助言を受けながら事例紹介に適した作品を慎重に選定し、作品の状態を鑑みた撮影ポイントを事前に決めた上で撮影に臨んだ結果、作品の負担を最小限に抑えつつ、ディテールを中心に画絹の欠失や絵具の剥離、掛軸の折傷や表具裂の裂傷といった損傷状態、補絹や補彩といった修理部分のクローズアップ画像を撮影することができた。現在、これらの画像をふんだんに掲載した教本の編集を進めており、本年中に完成の見込みである。	

※本様式に加え、補足資料として PDF ファイルや音声データ、映像データ等の提出も可。（必須ではありません）